

京 都 大 学

大学院工学研究科・工学部

概 要



平成 16 年度

目 次

1 . 理念	273
2 . 沿革	274
3 . 組織図	275
4 . 大学院の専攻・学部の学科等	276
5 . 役職者一覧	277
6 . 職員数	278
7 . 学生数（大学院・学部）	279
8 . 入学状況（大学院・学部）	280
9 . 卒業・修了状況、学位授与者数	281
10 . 研究生、外国人留学生、招へい外国人学者等、部局間協定一覧	282
11 . 公開講座の開催状況	285
12 . 図書関係	286
13 . 予算関係、建物面積	287

（表紙）

（Aクラスター事務区（桂キャンパス））

工学研究科・工学部の理念

学問の本質は真理の探求である。

その中において、工学は人類の生活に直接・間接に関与する学術分野を担うものであり、分野の性格上、地球社会の持続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っている。

京都大学工学研究科・工学部は、上の認識のもとで、基礎研究を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を図るとともに、高度の専門能力と高い倫理性、ならびに豊かな教養と個性を兼ね備えた人材を育成する。

このような研究・教育を進めるにあたっては、地域社会との連携と国際交流の推進に留意しつつ、研究・教育組織の自治と個々人の人権を尊重して研究科・学部の運営を行い、社会的な説明責任に応えるべく可能な限りの努力をする。

(参考)

京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

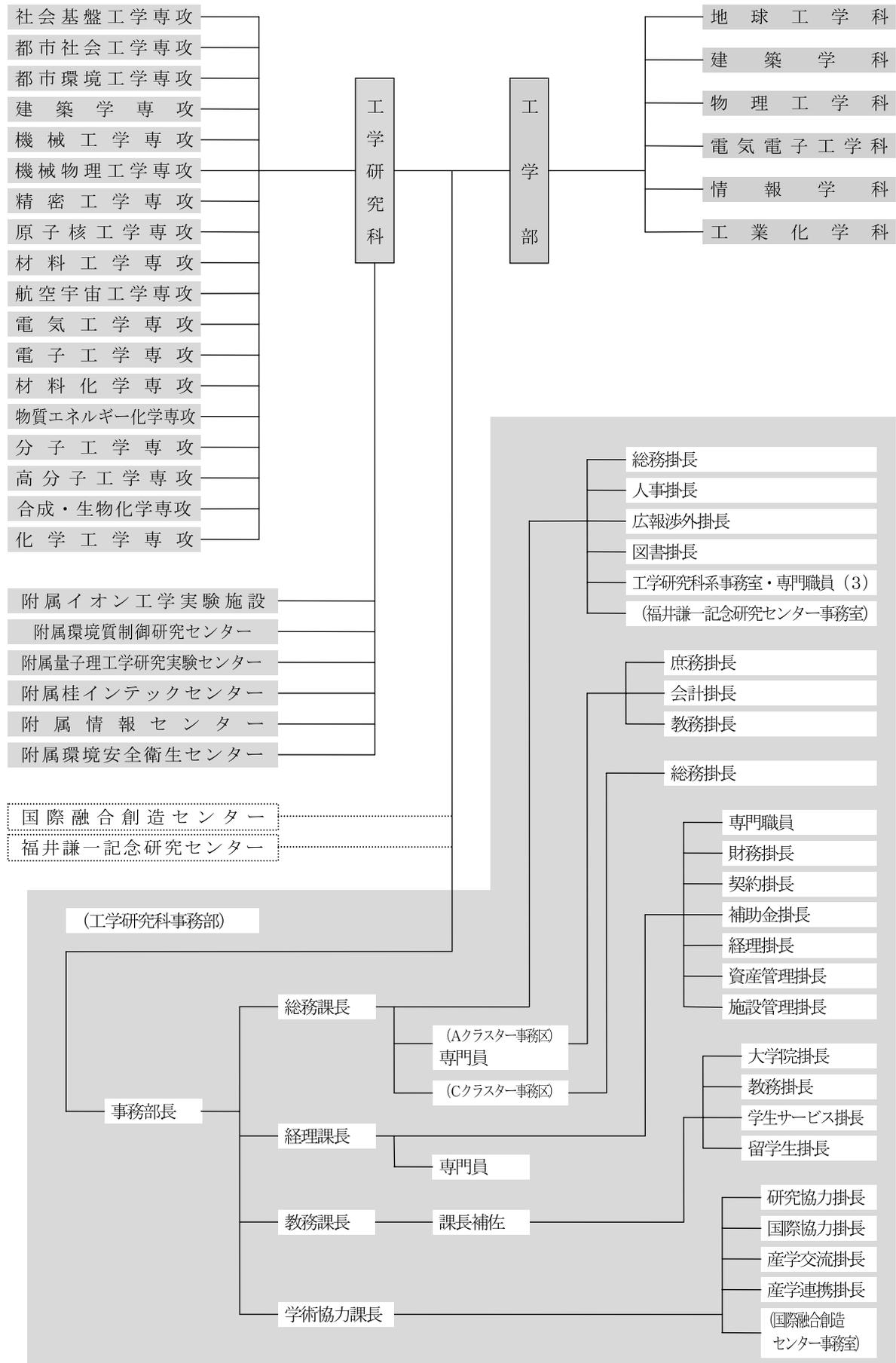
7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

(平成13年12月4日制定)

沿革

- 明治30. 6 京都帝国大学設置
9 理工科大学開設
土木工学科, 機械工学科設置
31. 9 電気工学, 採鉱冶金学, 製造化学の3学科設置
- 大正 3. 7 理工科大学を理科大学と工科大学に分離
9 土木・機械・電気・採鉱冶金・工業化学科を設置
8. 2 工科大学は工学部となる
9. 8 建築学科設置
- 昭和14. 3 燃料化学科設置
15. 4 化学機械学科設置
16. 3 繊維化学科設置
17. 3 採鉱冶金学科を鉱山学科と冶金学科に分離, 航空工学科設置
21. 1 航空工学科廃止, 応用物理学科設置
22. 9 京都帝国大学が京都大学と改称
24. 5 新制京都大学設置
28. 4 大学院工学研究科設置
29. 4 電子工学科設置
30. 4 応用物理学科を航空工学科に改称
32. 4 大学院工学研究科原子核工学専攻設置
33. 4 原子核工学科, 衛生工学科設置
34. 4 オートメーション研究施設, 数理工学科設置
35. 4 精密工学科, 合成化学科設置
36. 4 電気工学第二学科, 金属加工工学科, 電離層研究施設設置
繊維化学科を高分子化学科, 化学機械学科を化学工学科に改組, 改称
37. 4 機械工学第二学科設置
38. 4 交通土木工学科設置
39. 4 建築学第二学科設置, 鉱山学科を資源工学科に改称
41. 4 超高温プラズマ研究施設設置
燃料化学科を石油化学科に改組, 改称
45. 4 情報工学科設置
50. 4 機械工学第二学科を物理工学科に改組, 改称
51. 5 超高温プラズマ研究施設が京都大学ヘリオトロン核融合研究センターとして発足
53. 4 イオン工学実験施設設置
56. 4 電離層研究施設が京都大学超高層電波研究センターとして発足
58. 4 分子工学専攻設置
60. 4 環境微量汚染制御実験施設設置
61. 4 重質炭素資源転換工学実験施設設置
62. 5 応用システム科学専攻設置
- 平成 元 5 オートメーション研究施設廃止, 高度情報開発実験施設設置
3. 4 環境地球工学専攻設置
4. 4 メゾ材料研究センター設置
5. 4 化学系の改組
学部の5学科(工業化学, 石油化学, 化学工学, 高分子化学, 合成化学)を工業化学科に, 研究科の5専攻(学科に同じ)と分子工学専攻を材料化学, 物質エネルギー化学, 分子工学, 高分子化学, 合成・生物化学, 化学工学の6専攻に改組
6. 6 物理系の改組
学部の7学科(機械工学, 冶金学, 航空工学, 原子核工学, 精密工学, 金属加工学, 物理工学)を物理工学科に, 研究科の7専攻(学科に同じ)を, 機械工学, 機械物理工学, 精密工学, エネルギー応用工学, 原子核工学, 材料工学, 航空宇宙工学の7専攻に改組
7. 4 電気系及び情報系の改組
学部の, 電気工学科, 電子工学科, 電気工学第二学科の3学科を電気電子工学科に, 数理工学科及び情報工学科の2学科を情報学科に, 研究科の6専攻(電気工学, 電子工学, 電気工学第二, 数理工学, 情報工学, 応用システム科学)を電気工学専攻, 電子物性工学専攻, 電子通信工学専攻, 数理工学専攻, 情報工学専攻, 応用システム科学専攻に各々改組
環境微量汚染制御実験施設を環境質制御研究センターに名称変更
8. 4 土木系及び建築系の改組
学部の, 土木工学科, 衛生工学科, 交通土木工学科, 資源工学科の4学科を地球工学科に, 建築学科及び建築学第二学科の2学科を建築学科に改組
また, 研究科の7専攻(土木工学, 衛生工学, 交通土木工学, 資源工学, 建築学, 建築学第二, 環境地球工学)を土木工学専攻, 環境工学専攻, 土木システム工学専攻, 資源工学専攻, 建築学専攻, 生活空間工学専攻, 環境地球工学専攻に各々改組し, 大学院重点化を完了
エネルギー科学研究科の新設に伴い, エネルギー応用工学専攻を廃止
附属重質炭素資源転換工学実験施設の廃止
9. 4 高度情報実験施設は, 総合情報メディアセンターへの統合により廃止
10. 4 情報学研究科の新設に伴い, 電子通信工学専攻, 数理工学専攻, 情報工学専攻及び応用システム科学専攻を廃止
附属イオン工学実験施設, 附属メゾ材料研究センター及び附属環境質制御研究センターが, 学部附属施設から研究科附属施設に転換
11. 4 附属量子理工学研究実験センター設置
13. 4 附属桂インテックセンター設置
14. 3 附属メゾ材料研究センター廃止
4 附属情報センター設置
15. 4 地球系及び建築系の改組, 並びに電気系の名称変更
研究科の5専攻(土木工学, 土木システム, 資源工学, 環境工学, 環境地球工学)を社会基盤工学, 都市社会学, 都市環境工学の3専攻に改組
また, 生活空間工学専攻を廃止し, 電子物性工学専攻を電子工学専攻に名称変更
- 10 桂キャンパス開学
電気工学, 電子工学, 材料化学, 物質エネルギー化学, 分子工学, 高分子工学, 合成・生物化学, 化学工学の8専攻及び附属イオン工学実験施設が, Aクラスターへ移転
16. 4 附属環境安全衛生センター設置
10 事務部が桂キャンパスBクラスターへ, 建築学専攻がCクラスターへ移転

組織図



大学院の専攻別講座等名

大学院	専攻	講 座
工学研究科 18専攻 80講座 6施設	社会基盤工学専攻	応用力学, 地殻工学, 構造工学, 構造材料学, 地盤・水工学
	都市社会工学専攻	都市基盤システム工学, 都市社会計画学, 交通マネジメント工学, ライフライン工学, 社会基盤マネジメント工学
	都市環境工学専攻	地殻環境工学, 環境デザイン工学, 都市空間工学, 居住空間学, 環境情報学, ウォーターフロント環境工学, 複合構造デザイン工学, 環境システム工学, 環境衛生学, ジオフロント環境工学, 総合環境学, 環境材料学, 環境構成学
	建築学専攻	建築情報システム学, 人間生活環境学, 建築史学, 建築構法学, 建築環境計画学, 建築設計学, 建築構造学, 建築生産工学,
	機械工学専攻	機械システム工学, 機械設計制御工学, 機械材料力学, 熱流体工学
	機械物理工学専攻	メゾスコピック物性工学, 材料強度物性学, 物性工学
	精密工学専攻	デザインシステム論, システム工学, 知能機械システム
	原子核工学専攻	量子ビーム科学, 量子物質工学, 核エネルギー工学
	材料工学専攻	材料設計工学, 材料プロセス工学, 材料物性学, 材料機能学
	航空宇宙工学専攻	航空宇宙力学, 航空宇宙基礎工学, 航空宇宙解析工学
	電気工学専攻	複合システム論, 電磁工学, 電気エネルギー工学, 電気システム論
	電子工学専攻	集積機能工学, 電子物理工学, 電子物性工学, 量子機能工学
	材料化学専攻	機能材料設計学, 無機材料化学, 有機材料化学, 高分子材料化学
	物質エネルギー化学専攻	エネルギー変換化学, 基礎エネルギー化学, 基礎物質化学, 触媒科学
	分子工学専攻	分子設計学, 分子物性工学, 分子エネルギー工学, 物性物理化学
	高分子化学専攻	先端機能高分子, 高分子合成, 高分子物性
	合成・生物化学専攻	有機設計学, 合成化学, 生物化学
化学工学専攻	環境プロセス工学, 化学工学基礎, 化学システム工学	
(附属教育研究施設等)	イオン工学実験施設 環境質制御研究センター 量子理工学研究実験センター 桂インテックセンター 情報センター 環境安全衛生センター	(昭和53年4月開設) 京都市左京区吉田本町 (平成7年4月開設) 大津市由美浜1の2 (平成11年4月開設) 宇治市五ヶ庄 (平成13年4月開設) 京都市西京区京都大学桂 (平成14年4月開設) 京都市左京区吉田本町 (平成16年4月開設) 京都市西京区京都大学桂

学部の学科別学科目名

学部	学科	学 科 目
工学部 6学科 14学科目	地球工学科	土木工学, 環境工学, 資源工学
	建築学科	建築学
	物理工学科	機械システム学, 材料科学, エネルギー理工学, 宇宙基礎工学
	電気電子工学科	電気電子工学
	情報学科	計算機科学, 数理工学
	工業化学科	創成化学, 工業基礎化学, 化学プロセス工学

平成 16 年度役職者一覧

工学研究科長・工学部長	荒 木 光 彦
教育研究評議員	大 寫 幸一郎
教育研究評議員	土 屋 和 雄

専攻長

社会基盤工学専攻	松 岡 俊 文	航空宇宙工学専攻	永 田 雅 人
都市社会工学専攻	細 田 尚	電気工学専攻	大 澤 靖 治
都市環境工学専攻	高 橋 大 忒	電子工学専攻	鈴 木 実
建築学専攻	井 上 一 朗	材料化学専攻	瀧 川 敏 算
機械工学専攻	小 寺 秀 俊	物質エネルギー化学専攻	光 藤 武 明
機械物理工学専攻	立 花 明 知	分子工学専攻	今 堀 博
精密工学専攻	吉 村 允 孝	高分子化学専攻	澤 本 光 男
原子核工学専攻	山 本 克 治	合成・生物化学専攻	森 泰 生
材料工学専攻	田 中 功	化学工学専攻	東 谷 公

施設長

附属イオン工学実験施設	石 川 順 三	附属桂インテックセンター	渡 邊 史 夫
附属環境質制御研究センター	津 野 洋	附属情報センター	北 野 正 雄
附属量子理工学研究実験センター	伊 藤 秋 男	附属環境安全衛生センター	大 寫 幸一郎

学科長

地球工学科	禰 津 家 久	電気電子工学科	島 崎 眞 昭
建築学科	加 藤 直 樹	情報学科	美 濃 導 彦
物理工学科	北 村 隆 行	工業化学科	小久見 善 八

工学研究科事務部

事務部長	松 本 哲 夫	教務課長	桐 山 正 己
総務課長	中 山 久	課長補佐	八 木 隆
Aクラスター事務区長	灰 方 之 則	学術協力課長	中 川 権 治
経理課長	増 地 公一		
専門員	伊 藤 良 昭		

職員数

(教員)

(平成16. 10. 1現在)

区 分	教 員				合 計
	教 授	助 教 授	講 師	助 手	
社会基盤工学専攻	9	9		10	28
都市社会工学専攻	10	7		10	27
都市環境工学専攻	14 (2)	13 (2)	2	16 (2)	45 (6)
建築学専攻	10	9	3	10	32
機械工学専攻	9	5	3	9	26
機械物理工学専攻	5	4	2	5	16
精密工学専攻	5	4	1	5	15
原子核工学専攻	5	6	1	5	17
材料工学専攻	8	9		10	27
航空宇宙工学専攻	6	5	2	8	21
電気工学専攻	6	7	2	7	22
電子工学専攻	6	6	5	8	25
材料化学専攻	8	5	1	7	21
物質エネルギー化学専攻	7	5	1	10	23
分子工学専攻	3 (1)	4 (1)	1	6 (1)	14 (3)
高分子化学専攻	7	5		10	22
合成・生物化学専攻	8	8		12	28
化学工学専攻	7	5	2	8	22
附属イオン工学実験施設	1		1		2
附属環境制御研究センター	2	1	1	1	5
附属量子理工学研究実験センター	1	2		1	4
附属桂インテックセンター	[1]				[1]
附属情報センター	[1]	[1]	[1]		[3]
附属環境安全衛生センター	[1]		[1]		[2]
合 計	137 (3) [3]	119 (3) [1]	28 [2]	158 (3)	442 (9) [6]

注1：表中の（ ）内は大学院地球環境学堂との流動教員であって外数。

注2：表中の [] 内は兼務教員であって外数。

(職員)

(平成16. 10. 1現在)

区 分	事務職員	技術職員等	合 計	
社会基盤工学専攻	15	1	22	
都市社会工学専攻		2		
都市環境工学専攻		4		
地球工学科	8		11	
建築学専攻		3		
建築学科	17	2	30	
機械工学専攻				
機械物理工学専攻				
精密工学専攻		3		
原子核工学専攻		1		
材料工学専攻		7		
航空宇宙工学専攻				
物理工学科	22		31	
電気工学専攻				
電子工学専攻				
材料化学専攻		1		
物質エネルギー化学専攻		3		
分子工学専攻		1		
高分子化学専攻				
合成・生物化学専攻	4			
化学工学専攻				
電気電子工学科	3		3	
工業化学科	5		5	
附属情報センター		2	2	
附属環境安全衛生センター		1	1	
(国際融合創造センター)	国際融合創造センター事務室	1	1	
	事 務 部	75	4	79
合 計		146	39	185

学生数

1. 大学院

(平成16. 4. 1現在)

専攻	修士課程		博士後期課程			合計
	1年次	2年次	1年次	2年次	3年次	
社会基盤工学	43	45	13 (6)	8	-	109 (6)
都市社会工学	47	43	18 (3)	6	-	114 (3)
都市環境工学	97	81	34 (12)	12	-	224 (12)
土木工学	-	1	-	5 (5)	21 (11)	27 (16)
土木システム工学	-	3	-	7 (7)	10 (3)	20 (10)
資源工学	-	3	-	-	3 (2)	6 (2)
環境工学	-	4	-	2 (2)	8 (2)	14 (4)
環境地球工学	-	4	-	4 (4)	24 (3)	32 (7)
建築学	52	54	11 (4)	16 (5)	19 (4)	152 (13)
生活空間学	-	6	-	-	14 (3)	20 (3)
機械工学	32	29	9 (1)	6 (2)	7	83 (3)
機械物理工学	24	28	4 (1)	-	-	56 (1)
精密工学	22	22	4 (1)	2 (1)	3	53 (2)
原子核工学	17	24	1	3 (1)	4	49 (1)
材料工学	32	33	8 (1)	8	5	86 (1)
航空宇宙工学	17	19	5	2 (1)	2	45 (1)
電気工学	29	29	6	2	4 (1)	70 (1)
電子工学	34	33	8 (2)	6	-	81 (2)
電子物性工学	-	2	-	2 (2)	7 (3)	11 (5)
材料化学	26	29	10 (2)	7	13 (1)	85 (3)
物質エネルギー化学	35	34	10	13 (3)	10 (2)	102 (5)
分子工学	34	32	2	5	6 (1)	79 (1)
高分子化学	43	39	16 (3)	12 (2)	21 (2)	131 (7)
合成・生物化学	30	30	16 (3)	11	10	97 (3)
化学工学	29	29	6 (3)	3 (1)	5 (1)	72 (5)
合計	643	656	181 (42)	142 (36)	196 (39)	1,818 (117)

注：表中の（ ）内は10月入学者で内数。

2. 学部

(平成16. 4. 1現在)

学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
地球工学	185	180	182	245	792
建築学	83	85	82	125	375
物理工学	240	240	242	314	1,036
電気電子工学	136	137	135	190	598
情報学	96	94	100	160	450
工業化学	237	231	236	326	1,030
合計	977	967	977	1,360	4,281

平成 16 年度入学状況

1. 大学院

専攻	入学定員	修士課程						博士後期課程						
		入学志願者			入学者			入学志願者			入学者			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
社会基盤工学	29	52(3)	2	54(3)	41(2)	2	43(2)	14	7(2)	1(1)	8(3)	7(2)		7(2)
都市社会学	31	52(3)	6	58(3)	42(2)	5	47(2)	15	14(5)[2]	4(3)	18(8)[2]	12(3)[2]	3(2)	15(5)[2]
都市環境工学	77	101(2)	18	119(2)	84(1)	13	97(1)	28	20(4)[7]	2	22(4)[7]	20(4)[7]	2	22(4)[7]
建築学	34	61(4)	14(3)	75(7)	43(3)	9(2)	52(5)	16	10(1)[2]	2(1)	12(2)[2]	6(1)[2]	1	7(1)[2]
機械工学	21	104(1)	4	108(1)	32		32	10	6		6	6		6
機械物理工学	19				24		24	9	3 [2]		3 [2]	3 [2]		3 [2]
精密工学	15				21	1	22	7	3 [1]		3 [1]	3 [1]		3 [1]
原子核工学	19	20	1	21	16	1	17	9	1		1	1		1
材料工学	22	47	2	49	30	2	32	10	8 [1]		8 [1]	7 [1]		7 [1]
航空宇宙工学	17	26	2	28	17		17	8	4 [1]	1	5 [1]	4 [1]	1	5 [1]
電気工学	21	108(1)	4(1)	112(2)	27	2(1)	29(1)	10	7(1)[4]		7(1)[4]	6(1)[3]		6(1)[3]
電子工学	21				33	1	34	10	7 [1]		7 [1]	6 [1]		6 [1]
材料化学	19	185	29(1)	214(1)	23	3	26	9	8 [1]		8 [1]	8 [1]		8 [1]
物質エネルギー化学	23				27	8	35	11	7(1)[1]	2	9(1)[1]	7(1)[1]	2	9(1)[1]
分子工学	27				30	4	34	12	3	1	4	2		2
高分子化学	31				38	5	43	15	10(2)	3(1)	13(3)	10(2)	3(1)	13(3)
合成・生物化学	21				28	2(1)	30(1)	10	11	2	13	11	2	13
化学工学	19	39(2)		39(2)	29(2)		29(1)	9	3(1)[1]		3(1)[1]	3(1)[1]		3(1)[1]
合計	466	795(16)	82(5)	877(21)	585(10)	58(4)	643(14)	212	132(17)[24]	18(6)	150(23)[24]	122(15)[23]	14(3)	136(18)[23]

注1:表中の () 内は外国人留学生で内数。
注2:表中の [] 内は社会人特別選抜で内数。

2. 学部

学科	入学定員	入学志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
地球工学	185	682(3)	66(3)	748(6)	167	18(1)	185(1)
建築学	80	336(5)	90(2)	426(7)	63(1)	20(2)	83(3)
物理工学	235	720(9)	28	748(9)	234(4)	6	240(4)
電気電子工学	130	374(3)	18(2)	392(5)	131(3)	5(2)	136(5)
情報学	90	270(5)	10(1)	280(6)	92(4)	4(1)	96(5)
工業化学	235	705(4)	67	772(4)	220(2)	17	237(2)
合計	955	3,087(29)	279(8)	3,366(37)	907(14)	70(6)	977(20)

注:表中の () 内は外国人留学生で内数。

卒業・修了状況及び学位授与者数

1. 大学院修了者数（専攻別）

専攻	修士課程		博士後期課程
	平成15年度	累計	平成16年4月1日現在 研究指導認定退学者累計
土木工学	46	1,995	130
交通土木工学		598	14
土木システム工学	31	237	19
資源工学	15	678	39
衛生工学		620	54
環境工学	28	202	7
環境地球工学	43	498	23
建築学	38	1,227	125
建築学第二		514	51
生活空間学	22	156	12
機械工学	30	1,094	72
物理工学		462	37
機械物理工学	23	163	5
精密工学	22	816	55
原子核工学	14	847	128
冶金学		634	47
金属加工学		567	43
材料工学	35	297	7
エネルギー応用工学		57	2
航空工学		388	32
航空宇宙工学	20	128	3
電気工学	22	961	88
電子工学		816	76
電子物性工学	34	226	11
電気工学第二		730	67
電子通信工学		110	2
数理工学		785	84
情報工学		508	44
応用システム科学		342	10
工業化学		1,263	212
材料化学	24	254	11
石油化学		758	137
物質エネルギー化学	31	337	12
分子工学	29	504	35
高分子化学	37	1,342	239
合成化学		582	152
合成・生物化学	28	287	33
化学工学	25	1,039	97
合計	597	23,022	2,215

2. 博士学位授与者数 (平成16. 4. 1現在)

区 分		工学博士
旧制	大正9年6月以前の学位令によるもの	42 (28)
	大正9年7月以降の学位令によるもの	1,338
新制	大学院博士課程修了者	2,406
	論文提出によるもの	3,799
合 計		7,585 (28)

注：表中の（ ）内は推薦によるもので内数。

3. 学部卒業者数（学科別）

学 科	年 度	昭和27年度～ 平成14年度	平成15年度	累計
	土木工学		3,222	
機械工学		2,122		2,122
電気工学		2,112		2,112
鉱山学		357		357
資源工学		1,073		1,073
冶金学		1,532		1,532
工業化学		2,125		2,125
建築学		2,207		2,207
燃料化学		443		443
石油化学		1,296		1,296
化学機械学		295		295
化学工学		1,244		1,244
高分子化学		1,225		1,225
繊維化学		250		250
応用物理学		116		116
電子工学		1,606		1,606
航空工学		810		810
原子核工学		714		714
衛生工学		1,390		1,390
数理工学		1,448		1,448
精密工学		1,379		1,379
合成化学		1,259		1,259
電気工学第二		1,447		1,447
金属加工学		1,220		1,220
機械工学第二		505		505
交通土木工学		1,284		1,284
建築学第二		1,149		1,149
情報工学		1,037		1,037
物理工学		480		480
(新)工業化学		1,519	243	1,762
(新)物理工学		1,422	235	1,657
電気電子工学		636	132	768
情報学		415	87	502
地球工学		747	206	953
(新)建築学		336	90	426
合計		40,422	993	41,415

研究生、外国人留学生、招へい外国人学者及び部局間協定一覧

1. 研究生等受入れ状況 (平成16. 4. 1現在)

専攻・学科	区 分				
	研究生	研修員	特別聴講 学生	特別研究 学生	合計
社会基盤工学					
都市社会工学	3 (2)			1 (1)	4 (3)
都市環境工学	2 (1)	3			5 (1)
建 築 学	14 (5)	5		1 (1)	20 (6)
機 械 工 学	1	2		1 (1)	4 (1)
機械物理工学	1 (1)				1 (1)
精 密 工 学				1 (1)	1 (1)
原子核工学					
材 料 工 学					
航空宇宙工学	2 (1)				2 (1)
電 気 工 学				2 (2)	2 (2)
電 子 工 学		2			2
材 料 化 学	2 (2)	1			3 (2)
物質エネルギー化学	2 (2)				2 (2)
分 子 工 学	1				1
高 分 子 化 学	5 (4)	1		2 (2)	8 (6)
合成・生物化学		2			2
化 学 工 学	2 (2)				2 (2)
地 球 工 学 科			1 (1)		1 (1)
建 築 学 科					
物 理 工 学 科					
電気電子工学科					
情 報 学 科			1 (1)		1 (1)
工 業 化 学 科					
合 計	35 (20)	16	2 (2)	8 (8)	61 (30)

注1:表中の()内は、外国人で内数。

注2:研修員は受託研究員を含む。

2. 外国人留学生国別一覧 (平成16. 4. 1現在)

地域・国名等	学部	大学院		合計
		修士課程	博士後期課程	
アジア州 (17)				
バングラデシュ			2	2
中 国	46	10	36	92
香 港			1	1
インドネシア		1	6	7
イ ラ ン			3	3
イスラエル		1	1	2
韓 国	19	8	40	67
マレーシア	1	1	1	3
モンゴル			3	3
ネパール			3	3
パキスタン			1	1
フィリピン		2		2
スリランカ	1			1
台 湾		2	2	4
タ イ	1	4	12	17
トルコ			2	2
ベトナム	11	1	4	16
大洋州 (1)				
オーストラリア			1	1
アフリカ州 (5)				
アルジェリア			1	1
エジプト			1	1
ケニア			1	1
モロッコ			1	1
タンザニア			1	1
ヨーロッパ州 (6)				
ベルギー			1	1
フランス		1	2	3
ドイツ			1	1
ポーランド		1		1
ポルトガル		1		1
ルーマニア			2	2
北アメリカ州 (1)				
メキシコ			1	1
南アメリカ州 (3)				
ブラジル		1	3	4
コロンビア			1	1
ペルー			1	1
計 (33)	79	34	135	248

3. 外国人研究留学生等受入状況 (平成16.4.1現在)

区分 地域・国名等	研究生	特別聴講 学生	特別研究 学生	合計
アジア州 (5)				
中国	8		4	12
韓国			1	1
マレーシア	1			1
台湾	2			2
タイ	2			2
ヨーロッパ州 (8)				
キプロス	1			1
フィンランド			1	1
フランス	1		1	2
ドイツ	1			1
ポルトガル	1			1
セルビア・モンテネグロ			1	1
スウェーデン		1		1
スイス	1			1
NIS諸国 (1)				
ロシア	1			1
北アメリカ州 (1)				
アメリカ合衆国		1		1
南アメリカ州 (1)				
コロンビア	1			1
計 (16)	20	2	8	30

4. 招へい外国人学者等受入者数 (平成15年度)

区分 地域・国名等	招へい 外国人学者	外国人 共同研究者	外国人 研究員	合計
アジア州 (12)				
中国	11	4	2	17
インド	1			1
インドネシア	1			1
イスラエル	1			1
韓国	5	2		7
マレーシア	1			1
ネパール	1			1
パキスタン	1			1
フィリピン	1			1
スリランカ	1			1
台湾	1			1
タイ	1			1
アフリカ州 (2)				
エジプト			1	1
ガーナ		1		1
ヨーロッパ州 (13)				
チェコ	2			2
デンマーク		1		1
フランス	4	2		6
ドイツ	5	4		9
ギリシャ	2			2
イタリア	3	1		4
オランダ		2		2
ポーランド	4			4
ポルトガル		1		1
スペイン		1		1
スウェーデン	1			1
連合王国	1	1		2
ユーゴスラビア	1			1
NIS諸国 (1)				
ロシア	2			2
北アメリカ州 (2)				
カナダ	3	2		5
アメリカ合衆国	6	4		10
南アメリカ州 (1)				
ブラジル	1			1
計 (31)	61	26	3	90

5. 部局間学術交流協定締結大学

(平成 16. 4. 1 現在)

地域・国名等	機 関 名	締結年月日
アジア州 (5)		
中 国	中国科学技術大学	1997. 1. 1 2003. 8. 7 (更新)
	* 上海交通大学	1999. 1. 1 2003. 9. 4 (更新)
	香港科学技術大学工学研究科、理学研究科	2001. 9. 1
	大連理工大学	2003. 7. 3
韓 国	浦項科学技術大学	1997. 1. 1
	* 韓国高等科学技術院	1997. 1. 1 2002. 6. 5 (更新)
マレーシア	マラヤ大学	2002. 7. 12
シンガポール	国立シンガポール大学工学部	1996. 2. 5
	ナンヤン工科大学	2001. 1. 22
タ イ	* チュラロンコン大学工学部	1992. 6. 15 2001. 3. 15 (3研究科拡大)
	ヨーロッパ州 (8)	
チ ェ コ	チェコ工科大学ブラハ校工学部	1992. 7. 1 1996. 4. 3 (更新)
	* グルノーブル工科大学	1991. 11. 18 1999. 6. 23 (更新) 2004. 2. 10 (再更新)
フ ラ ン ス	ピエール・マリイ・キュリー大学 (パリ第6大学)	1992. 11. 10 1997. 12. 26 (更新)
	* マインツ・ヨハネスグーテンベルグ大学化学・薬学学科、有機化学研究所 エアランゲン・ニュルンベルク大学工学部	1994. 12. 2 2002. 2. 1
ド イ ツ	* デュッセルドルフ Heinrich Heine 大学	2002. 5. 17
	* ドルトムント大学	2002. 12. 18
	* カイザースラウテルン大学	2002. 12. 20
	* ミュンヘン工科大学	2003. 2. 3
	カールスルーエ大学	2004. 3. 22
	* デルフト工科大学	1998. 1. 1 2003. 2. 17 (更新)
ノ ル ウ ェ ー	* ノルウェー科学技術大学 (元トロンハイム大学ノルウェー工科大学)	1990. 9. 1 1996. 4. 1 (更新) 2003. 3. 17 (再更新)
	* バレンシア工科大学	2001. 7. 1
	ストックホルム王立工科大学	2002. 2. 1
ス ウ ェ ー デ ン	* チャルマーシュ工科大学	2002. 12. 19
	バーミンガム大学工学研究科等	2003. 12. 5
北アメリカ州 (2)		
カ ナ ダ	* ウォータール大学工学部	1992. 12. 1 1998. 7. 10 (更新)
	* ウィスコンシン大学マディソン校工学部	1990. 8. 1
ア メ リ カ 合 衆 国	ワシントン大学工学部	1991. 10. 15
	テキサス大学オースティン校工学部	1991. 12. 1
	* レンスラー工科大学工学部	1995. 1. 1
15カ国	31大学	

* : 授業料不徴収の学生交流協定締結校

工学部公開講座

<p>平成16年度</p> <p>身の回りのハイテク</p>	<p>ロボットと人間 ― 機構, 技能, そして心へ ―</p> <p>微生物の多様な能力を人間社会に活かそう</p> <p>知っているようで知らないポリマーの話</p> <p>リズムとカオス</p>	<p>(吉川 恒夫)</p> <p>(今中 忠行)</p> <p>(中條 善樹)</p> <p>(藤坂 博一)</p>
<p>平成15年度</p> <p>人間- 誕生、生活、そして未来</p>	<p>医学・生物学と工学・情報学の融合</p> <p>環境と都市・交通</p> <p>持続的な都市と建築をめざして - 環境とエネルギー -</p> <p>宇宙工学への招待</p>	<p>(松田 哲也)</p> <p>(青山 吉隆)</p> <p>(吉田 治典)</p> <p>(土屋 和雄)</p>
<p>平成14年度</p> <p>人と環境にやさしい 工学をめざして</p>	<p>集中から分散へ - 21世紀の電源のあり方 -</p> <p>人間と風景 - 日本の伝統的な絵画や庭から学ぶこと -</p> <p>聖徳太子コンピュータをめざして - 混合音の認識 -</p> <p>環境と化学</p>	<p>(垣本 直人)</p> <p>(岡崎 甚幸)</p> <p>(奥 乃 博)</p> <p>(大 嶋 幸一郎)</p>
<p>平成13年度</p> <p>21世紀のくらしと科学技術 - ナノテクノロジーと 地震工学 -</p>	<p>究極のモノづくり - ナノテクノロジーによる新材料創成 -</p> <p>新しい光ナノデバイス - 究極の光の制御を目指して -</p> <p>(施設見学) ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー</p> <p>地震火災から文化財を守ろう - もう時間がない -</p> <p>地震に弱い建物をなくすために</p> <p>- 阪神大震災のときの鋼構造建物の被害とその後の対策 -</p> <p>(施設見学) 土木百周年記念資料室</p>	<p>(平尾 一之)</p> <p>(野田 進)</p> <p>(土岐 憲三)</p> <p>(井上 一朗)</p>
<p>平成12年度</p> <p>21世紀の社会と工学</p>	<p>デジタルシティの現状</p> <p>バイオマイクロマシン</p> <p>21世紀の持続可能社会をどう描くか</p> <p>循環型社会形成と環境残留性の化学物質コントロール</p>	<p>(石田 亨)</p> <p>(鷲津 正夫)</p> <p>(内藤 正明)</p> <p>(酒井 伸一)</p>

図書関係

蔵書統計

(平成16. 4. 1現在)

	図書室名等	図書(冊数)			雑誌(タイトル数)		
		和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
1	共通図書室(共通・化学系)	565	14,781	15,346	149	495	644
2	地球系図書室	15,989	38,501	54,490	447	494	941
3	建築系図書室	58,699	32,380	91,079	244	223	467
4	物理系図書室	12,653	40,466	53,119	264	703	967
5	航空宇宙工学図書室	5,214	13,886	19,100	68	183	251
6	電気系図書室	16,311	23,121	39,432	432	492	924
7	化学系図書室	7,115	21,575	28,690	66	201	267
8	附属イオン工学実験室	25	217	242	1	2	3
	合計	116,571	184,927	301,498	1,671	2,793	4,464

予算関係及び建物面積

1. 予算額

区 分	平成13年度 (千円)	平成14年度 (千円)	平成15年度 (千円)	備 考
人 件 費	7,311,439	6,567,943	6,520,160	
物 件 費	2,733,741	3,879,221	3,803,752	営繕費・旅費を含む
計	10,045,180	10,447,164	10,323,912	
受託研究費(受入額)	464,748	702,391	916,921	共同研究を含む
科学研究費補助金(受入額)	1,804,795	2,907,476	2,569,440	COEを含む
奨学寄附金(受入額)	462,032	420,266	434,392	

2. 建物面積

(平成16.4.1現在)

区 分	面 積 (㎡)
①本部地区	
工 学 部 9 号 館	452
工 学 部 4 号 館	2,739
岡 田 記 念 館	240
高 分 子 化 学 東 別 館	539
土 木 総 合 館	2,900
土木工学科研究室実験室	108
土木総合館別館	402
土木工学科教室研究室	1,946
土木工学地震観測室	24
工学部5号館地下別棟	158
工 学 部 5 号 館	9,921
電 気 工 学 科 教 室	1,304
工 学 部 3 号 館	4,631
電 気 総 合 館	1,846
工 学 部 1 号 館	6,398
工学部研究実験棟	1,206
R I 研 究 実 験 棟	2,776
物 理 系 校 舎	18,233
工 学 部 6 号 館	6,197
工 学 部 6 号 新 館	617
工 学 部 2 号 館	8,891
石 油 化 学 研 究 室	175
建 築 学 科 製 図 室	252
建 築 学 教 室 本 館	1,587
工 学 部 7 号 館	6,147
工 学 部 坂 記 念 館	721
工 学 部 8 号 館	6,919
情報工学科研究室実験室	5,438
航空工学科研究室実験室	3,957
大電力イオン源装置室	338
電 気 系 学 科 校 舎	3,148
電 気 系 教 室 西 館	4,028
工 学 部 総 合 校 舎	4,389
そ の 他	555
小 計	109,182

区 分	面 積 (㎡)
②桂地区	
A クラスタ A 1 棟	11,631
A クラスタ A 2 棟	9,409
A クラスタ A 3 棟	8,451
A クラスタ A 4 棟	9,729
C クラスタ C 2 棟	8,738
極 低 温 セ ン タ ー	365
実 験 排 水 処 理 施 設	120
E M セ ン タ ー 棟	2,809
桂インテックセンター棟	6,328
事 務 管 理 棟	4,695
C クラスタ事務棟	295
小 計	62,570
③宇治・大津地区	
原 子 核 工 学 実 験 室	3,113
超 空 気 力 学 実 験 装 置 室	670
航 空 工 学 科 風 洞 実 験 室	662
水 質 汚 染 制 御 実 験 室	789
環 境 質 制 御 研 究 セ ン タ ー 研 究 室	296
そ の 他	192
小 計	5,722
合 計	177,474

3 最近の主な動向

2002.4(平成14年4月)大学院地球環境学堂・学舎の設置

大学院地球環境学堂・学舎は、平成11年5月、将来構想検討委員会に設置された地球環境科学研究構想専門委員会において検討され、平成13年4月、将来構想検討委員会において了承された地球環境科学研究構想に基づき、平成14年4月に設置された。

地球環境問題の解明・解決には、人間の活動と自然環境の相互関係に広く目を向けた総合的な研究、ならびに関連する科学技術およびそれを生み出してきた社会システムに関する諸研究が協同し、持続的な地球環境とそれを支える人間社会との双方の構築に資する新たな文明理念と科学技術知を構築すること、およびそれを具現化する人材育成を行う教育体制を整備することが不可欠である。

このため、研究面における融合性および流動性を確保し、教育面においては総合的かつ高度な能力を持つ人材養成に対応する立場から、従来の個別学問分野の深化に適した研究科に換えて、研究組織及び教育組織を分立し、研究組織として「地球環境学研究部(学堂)」、教育組織として「地球環境学教育部(学舎)」からなる大学院を構築し、既存の諸学の成果を新たな地球規模の文明理念のもとに地球益を語りうる学として統合しつつ、それに具現化する人材育成を行うことを目的としている。

工学研究科からは固有教員、流動教員として参画するほか、既存専門基盤と地球環境学の双方をつなぐ橋渡しとしての協働分野の教員としても組織間の連携による運営に協力している。学堂教員もまた、工学部等を兼担して学部教育にも関与している。

2002.4(平成14年4月)大型計算機センターと総合情報メディアセンターを統合し学術情報メディアセンターに改組・転換

学術情報メディアセンターは、高機能情報ネットワークシステム、大規模高速計算機システム、マルチメディアを活用した多様な情報システム、学術資源の電子化・コンテンツ化の4つの技術分野に関する研究部門があり研究開発が行われている。同センターの特徴は、研究開発で得られた成果を、京都大学における教育研究等の高度化に実利用するとともに、全国の教育研究機関の研究者等の共同利用に供することを目指している。

また、協力講座として工学研究科社会基盤工学専攻の計算力学講座、電気工学専攻の情報メディア工学講座を担当し、学部教育においては、工学部情報学科を兼担している。

2002.4(平成14年4月)福井謙一記念研究センターの設置

福井謙一記念研究センターは、昭和56年に福井謙一博士がノーベル化学賞を受賞されたことを記念して設立された財団法人基礎化学研究所が京都大学に寄附移管されたことを受けて、発足した。

同センターは、福井謙一博士の研究理念を継承し、最先端の基礎化学ならびに関連する諸分野の科学を融合し、次世代の化学理念の構築を行うことで、世界を先導する新たな物質観の創造を目指しており、「総合研究部門」と「理論研究部門」の2部門で構成されている。

理論化学・計算化学および仮想実験・実験化学の融合を推進し、次世代化学理論の構築

と計算システムの開発を行うとともに、平成15年度より若手研究者の独創的な研究に対する助成を行っている。協力講座として工学研究科分子工学専攻の分子材料科学講座を担当している。

2002.4(平成14年4月)附属情報センターの設置

附属情報センターは、平成13年9月の情報通信委員会小委員会の報告を受け、工学研究科に設置された。

インターネットを用いての遠隔機関との共同研究、研究成果のデジタルコンテンツ化と発信、世界中のデータの検索・閲覧と自己の研究の評価、そしてこれらを多角的に利用する教育といった大学の研究・教育活動にとって、情報基盤の整備とその円滑な運用は、不可欠となっている。また、情報通信ネットワークのコンピュータに対する不正アクセス・攻撃件数は急増しておりセキュリティの確保は工学研究としても重要な課題となっていた。

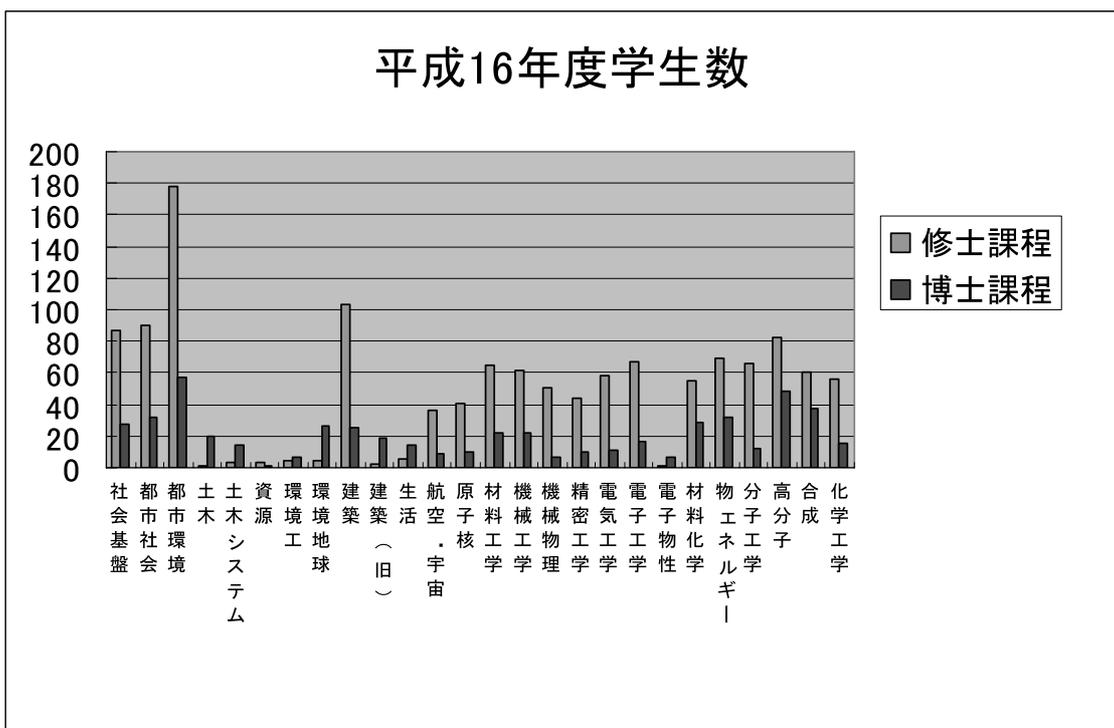
これまで情報通信ネットワークの運用管理は、現場の教職員レベルで対応がなされてきたが、同センターに情報基盤の整備、運用について専門の教員、技術職員を配置し、これら運用のサポートを行うことを目的としている。

2004.4(平成16年4月)附属環境安全衛生センターの設置

附属環境安全衛生センターは、工学研究科環境安全衛生問題検討準備会からの答申を受け、法人化後の環境安全衛生体制について検討が進められ、工学研究科を環境にやさしく安全衛生に配慮した教育研究にふさわしい場にするを目的として設置された。

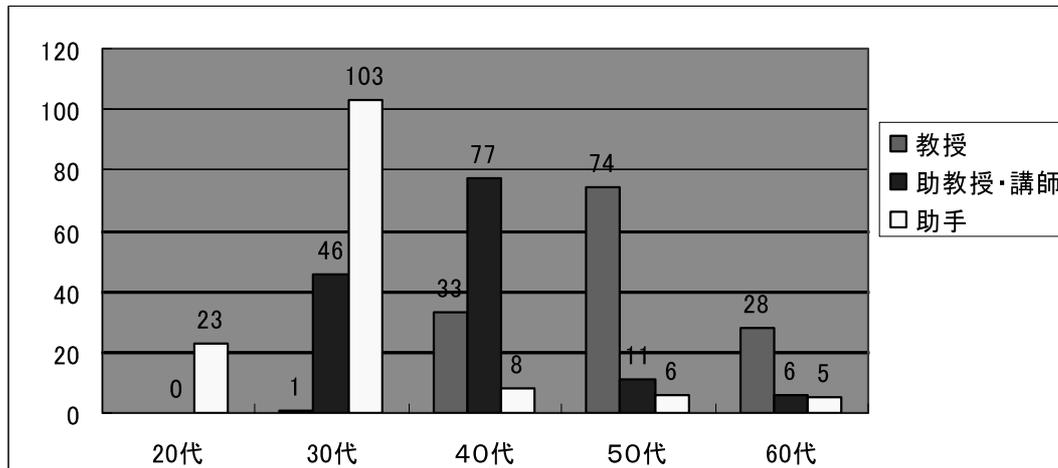
同センターは労働安全衛生法等の安全衛生関係諸法令の遵守ならびに環境マネジメントシステムの構築に向けた業務を一元的に行うとともに、作業管理、作業環境管理、健康管理について専門の教員・技術職員を配置し、作業環境測定や化学物質管理システムの運用などを通じて、工学研究科の教育研究活動をサポートしている。

4 工学研究科専攻調査資料

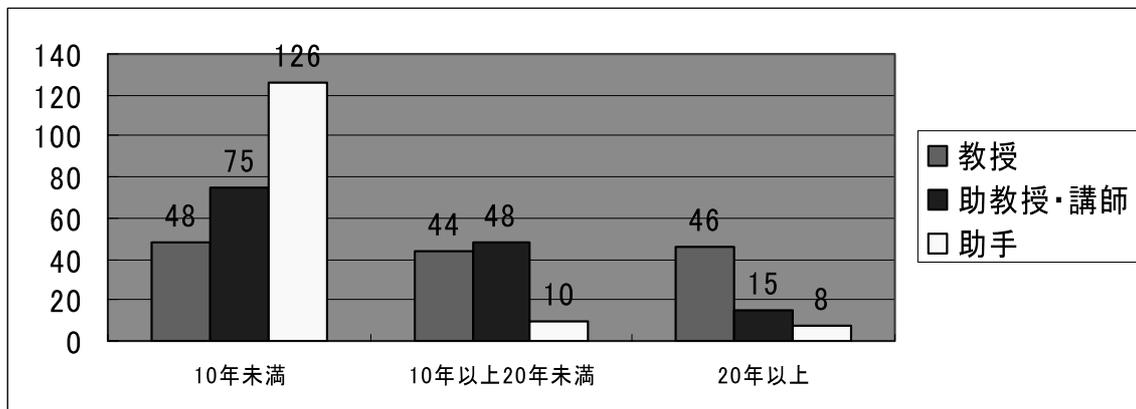


4-1 工学研究科全体資料

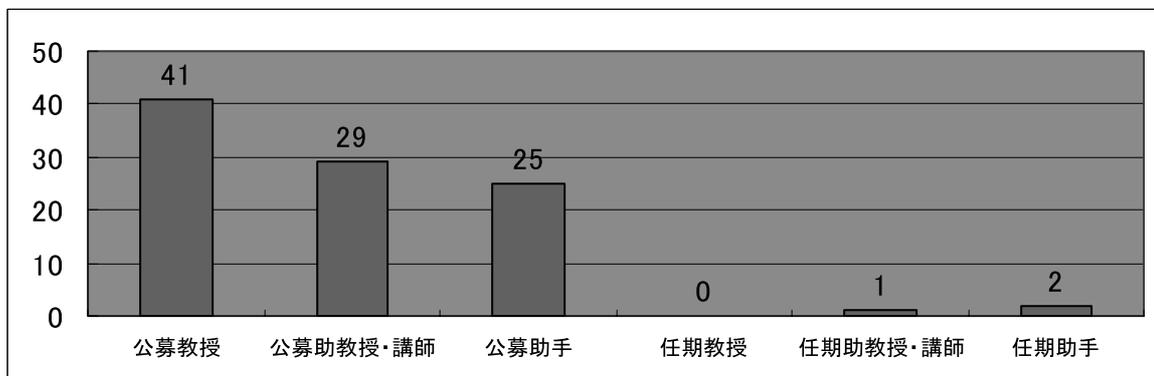
1. 教員の年代別分布



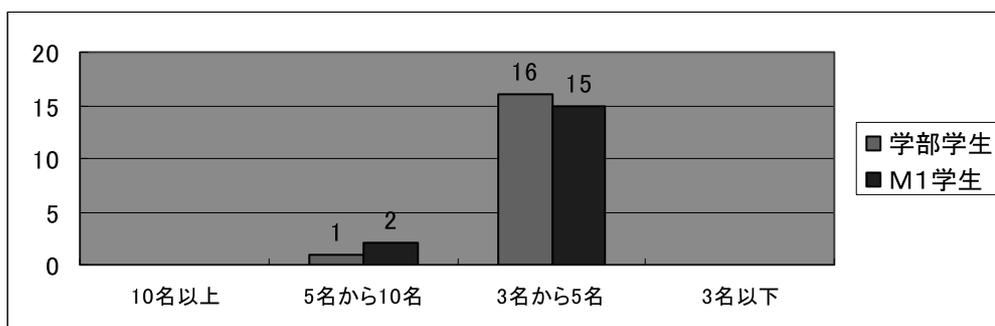
2. 教員の在職年数分布



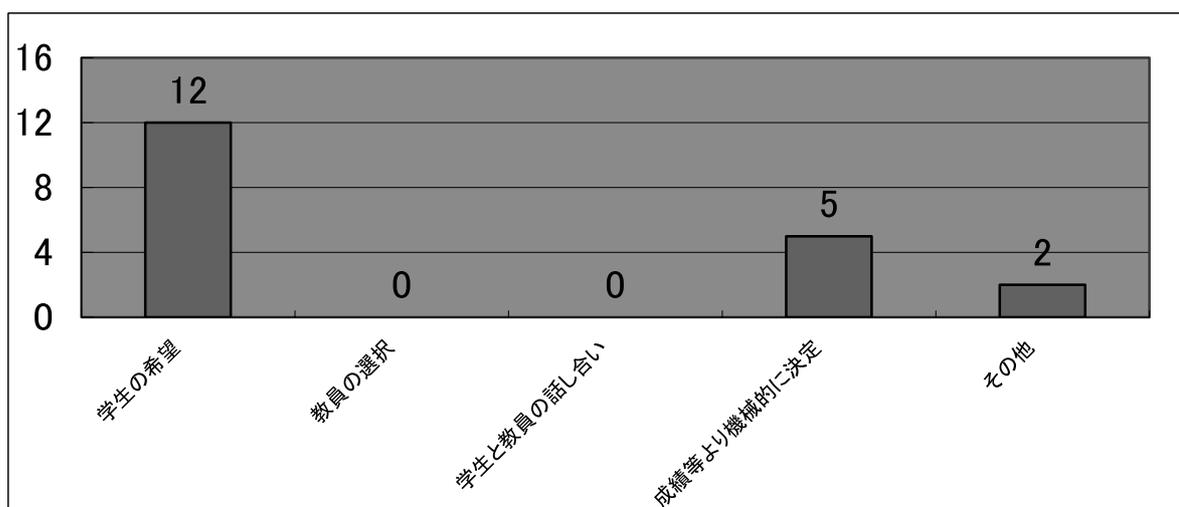
3. 教員選考等における任期制、公募制の導入状況について



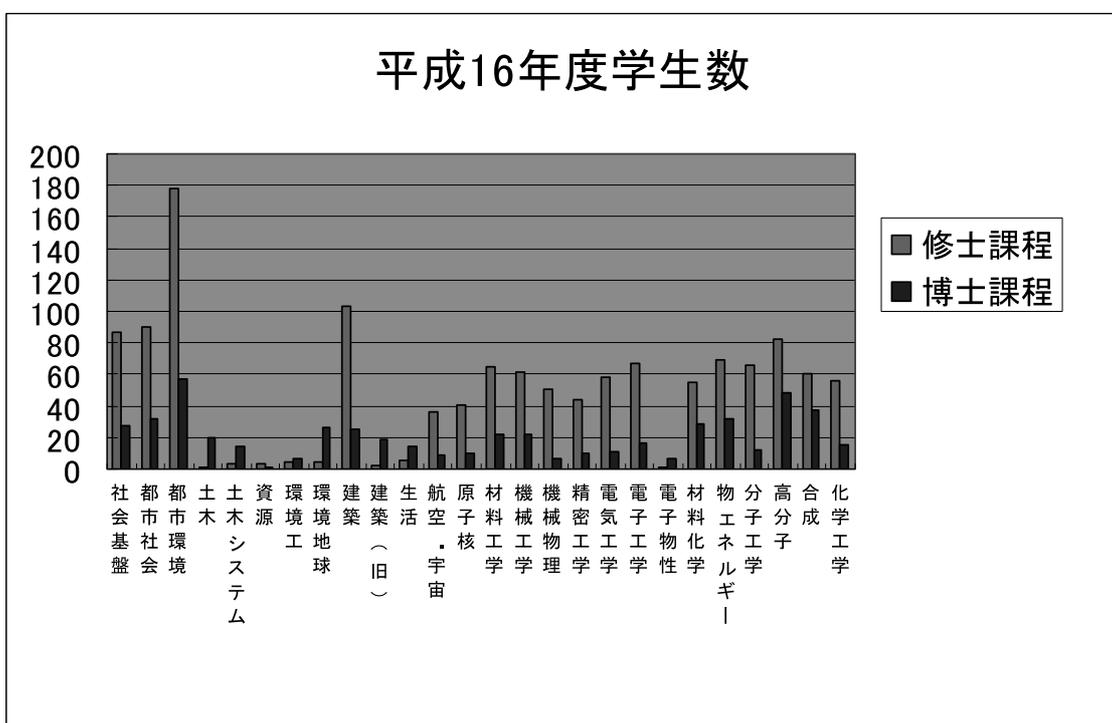
4. 研究室当り配属される学生数は、例年どの程度でしょうか？



5. 研究室配属は、どのようにして決定されていますか。

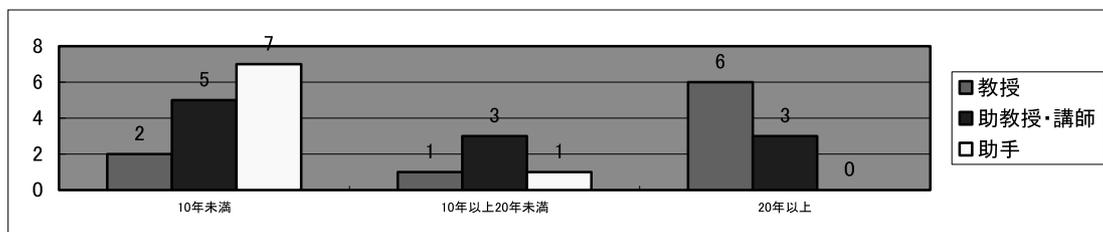


4-2 各専攻・各センター



社会基盤専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

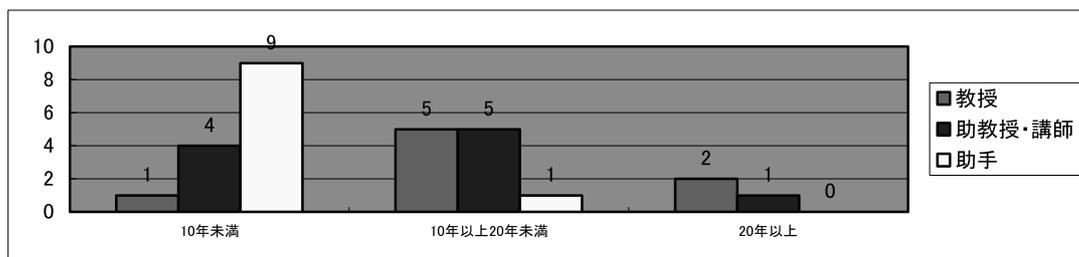
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

回答 なし

都市社会工学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

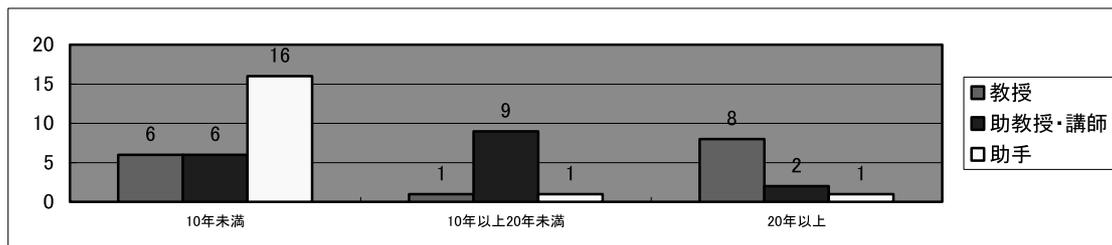
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

回答 なし

都市環境工学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

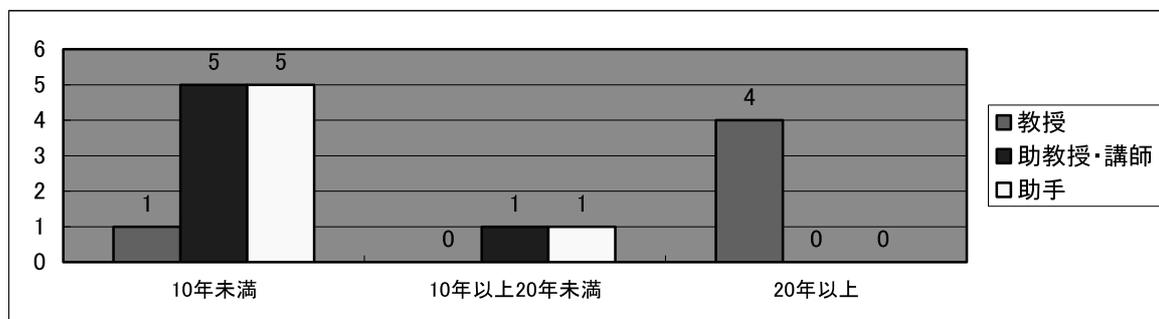
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

任期助教授・講師 1 名、任期助手 1 名

建築学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

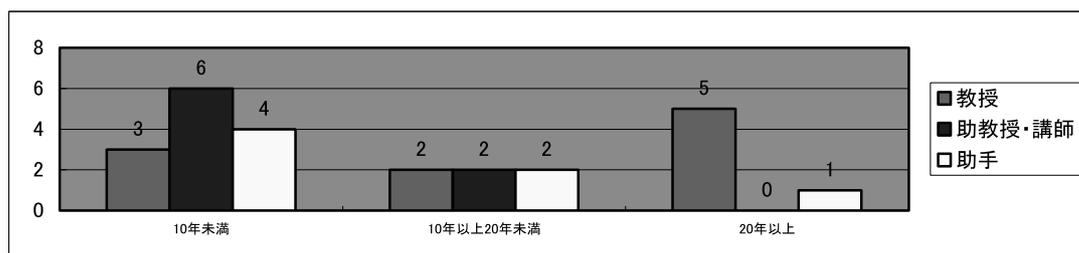
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

回答 なし

機械理工学

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

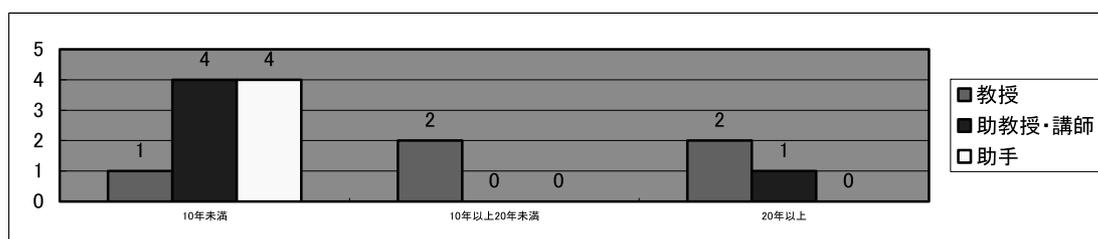
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

公募教授 15 名、公募助教授・講師 12 名、公募助手 11 名

マイクロエンジニアリング専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

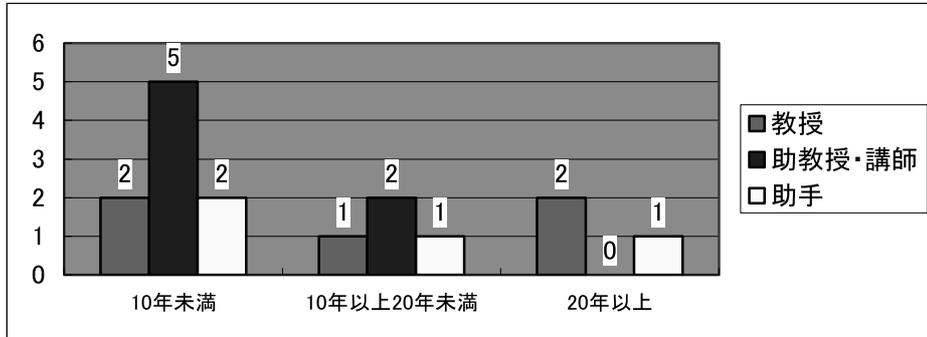
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

公募教授 9 名、公募助教授・講師 7 名、公募助手 8 名

原子核工学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

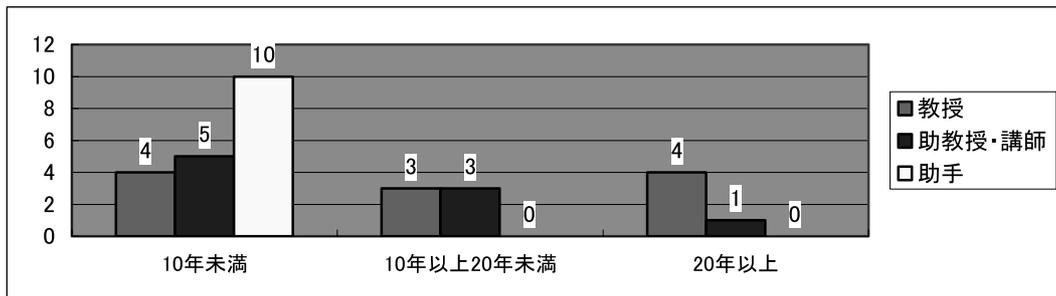
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

公募教授 2 名、公募助教授・講師 5 名、公募助手 3 名

材料工学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

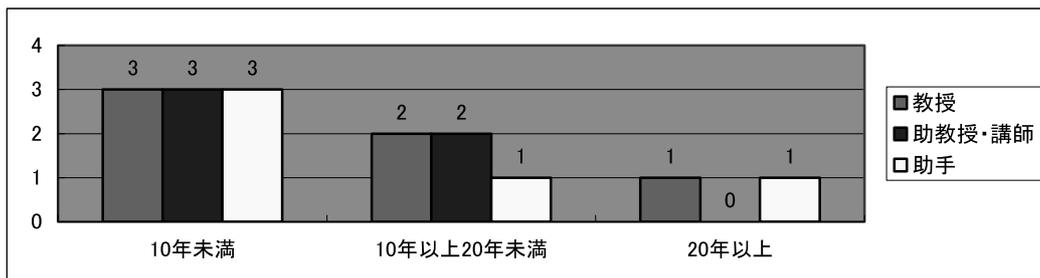
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

公募教授 6 名、公募助教授・講師 3 名、公募助手 2 名

航空宇宙工学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

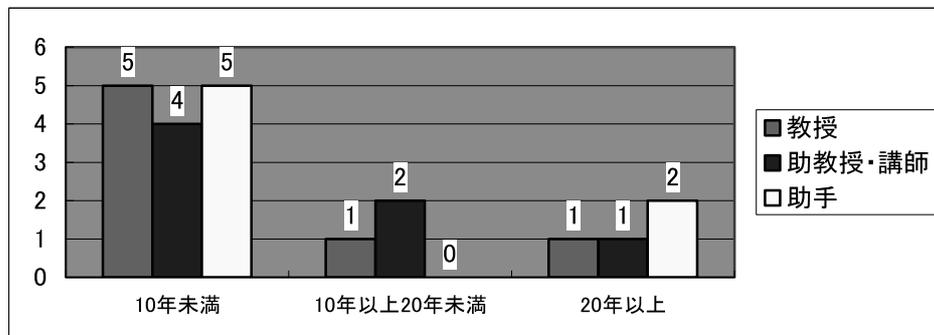
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

公募教授 2 名、公募助教授・講師 1 名

電気工学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

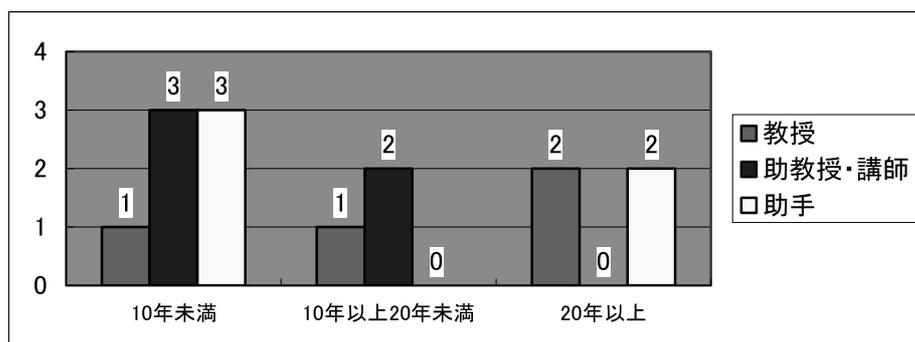
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

公募教授 1 名、任期助手 1 名

電子工学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

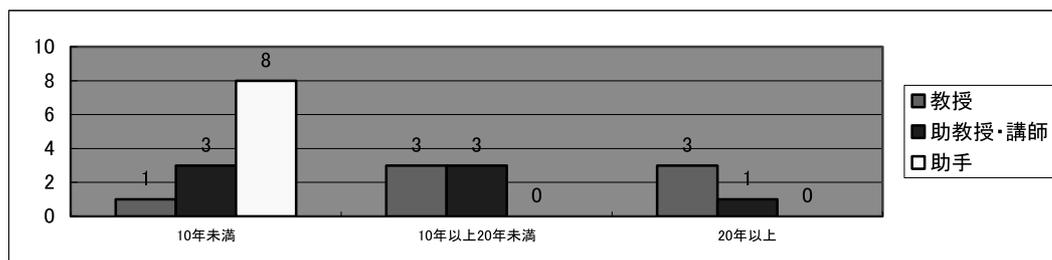
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

回答 なし

材料化学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

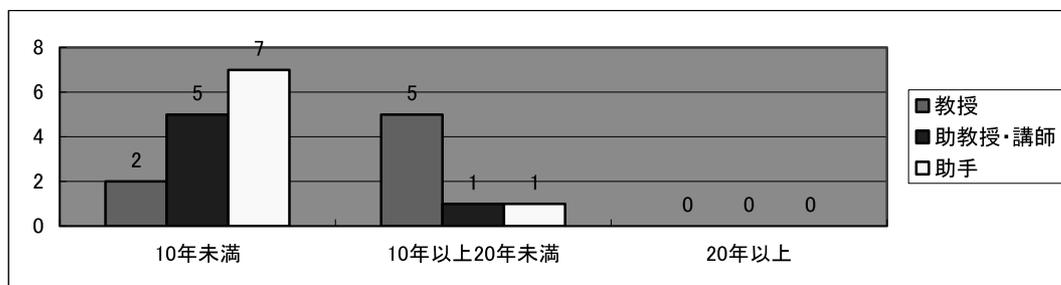
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

公募教授 3 名

物質エネルギー化学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

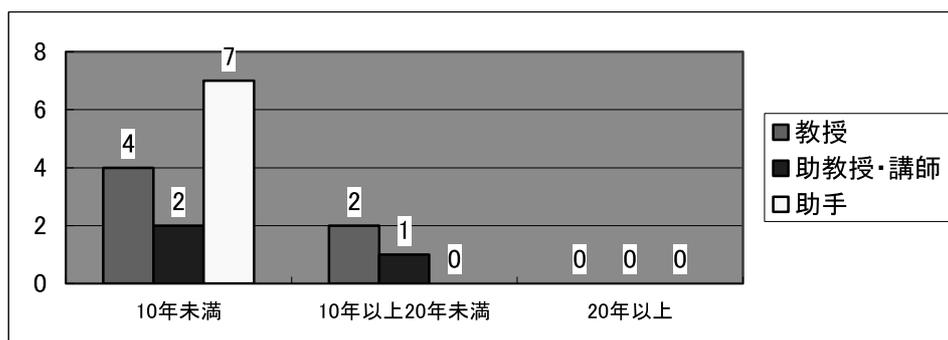
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

回答 なし

分子工学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

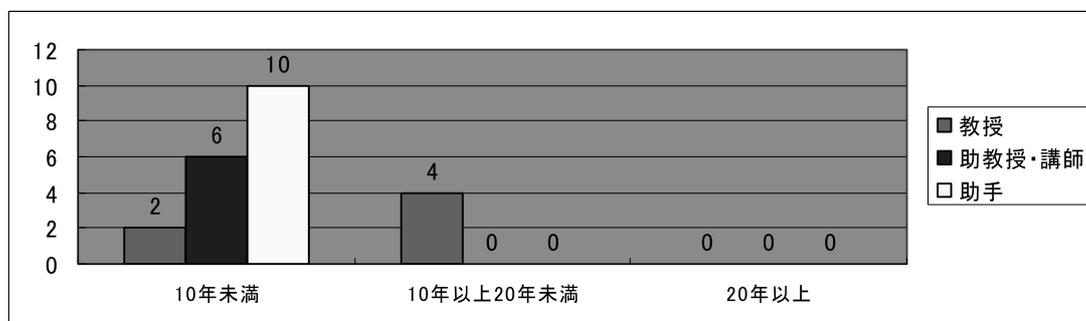
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

公募教授 3名、公募助手 1名

高分子化学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

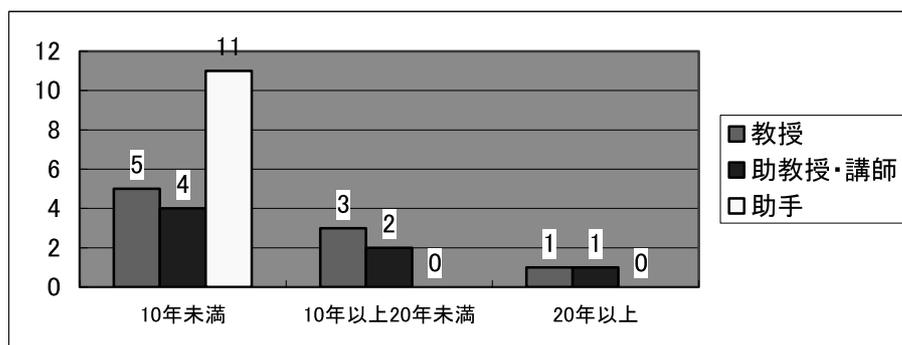
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

公募助教授・講師 1名

合成生物化学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

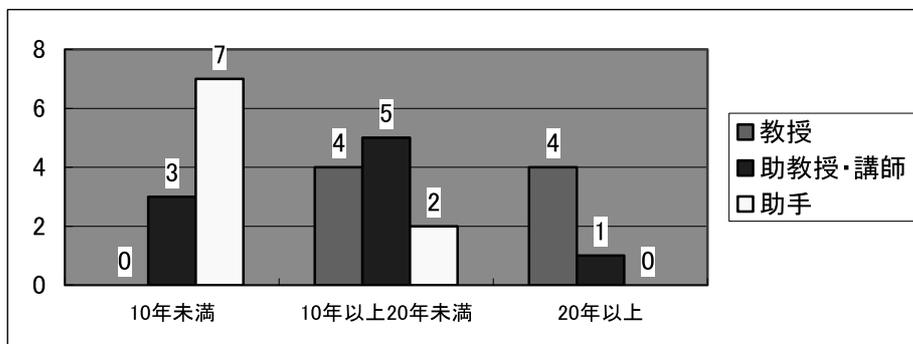
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

回答 なし

化学工学専攻

A、教員の在職年数分布



B、寄附講座設置状況

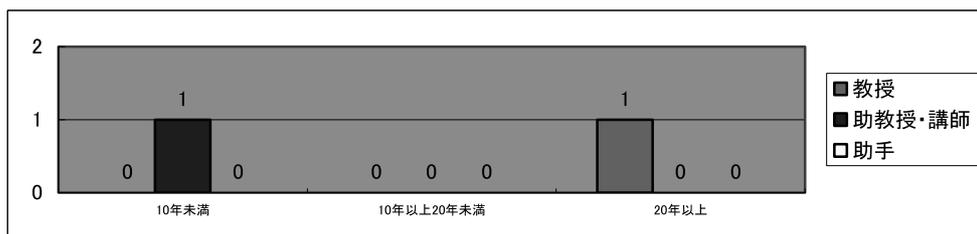
回答 なし

C、教員選考等における任期制、公募制の導入状況について

回答 なし

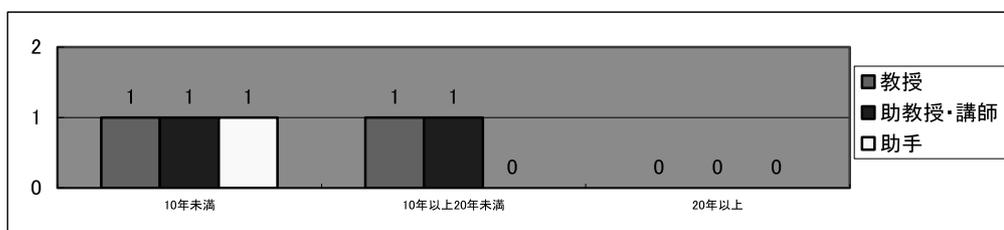
イオン工学実験施設

A、教員の在職年数分布



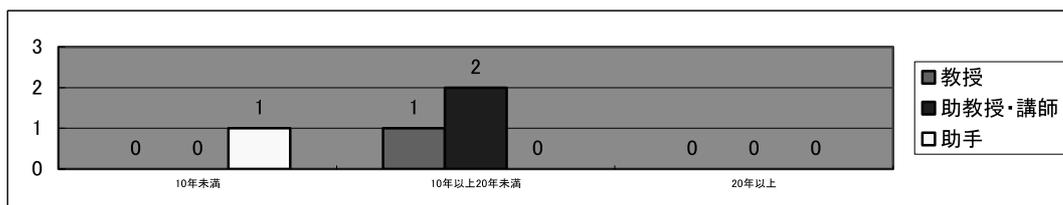
流域圏総合環境質研究センター

A、教員の在職年数分布



量子理工学研究実験センター

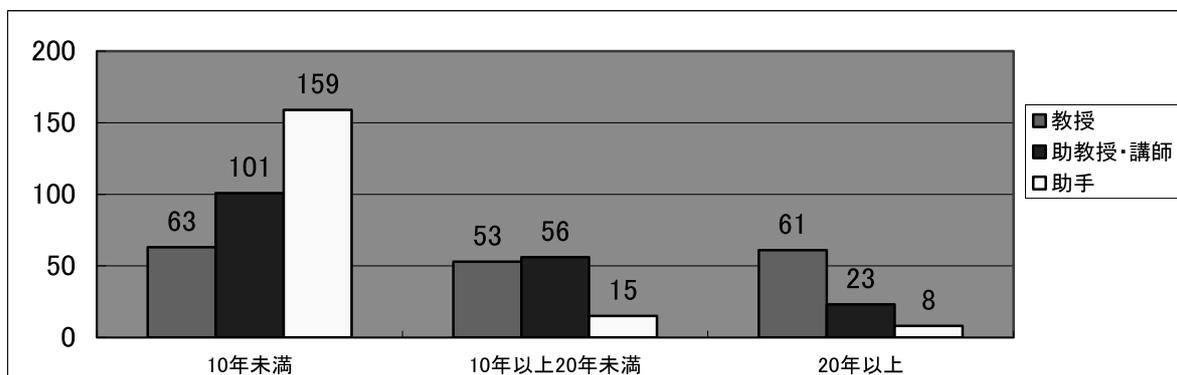
A、教員の在職年数分布



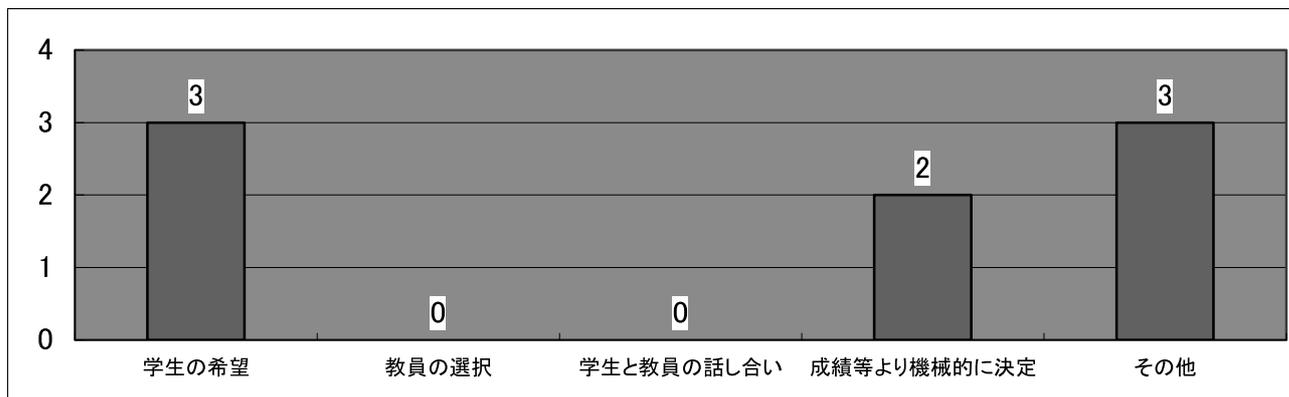
5 工学部調査資料

5-1 工学部全体

1、工学部全体の教員の在職年数分布



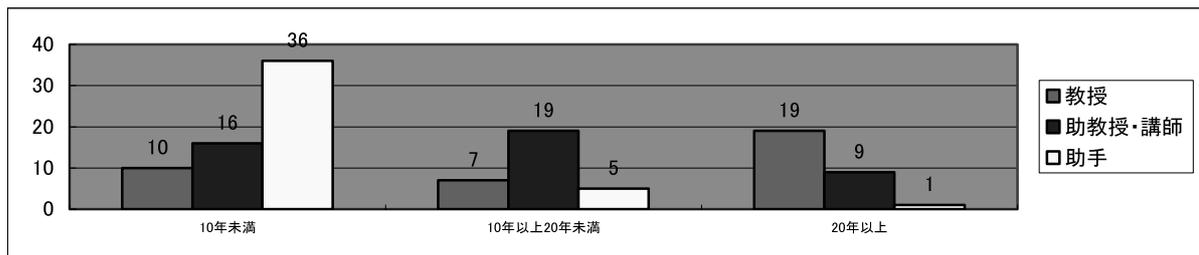
2、研究室配属はどのようにして決定されていますか？



5-2 各学科

地球工学科

A、教員の在職年数分布

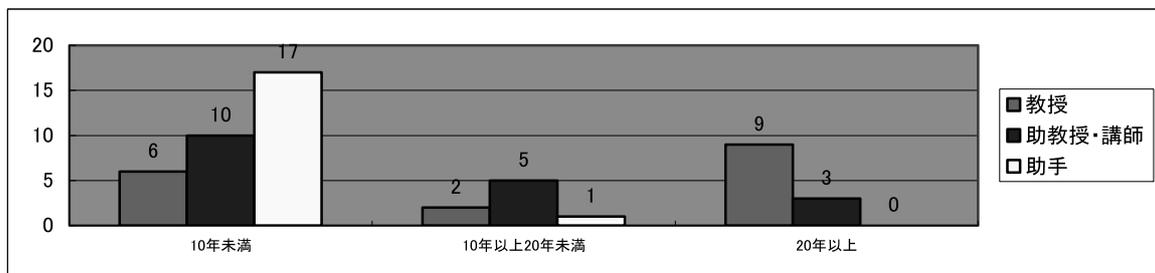


B、研究室配属は、どのようにして決定されていますか。

回答 ①学生の希望

建築学科

A、教員の在職年数分布

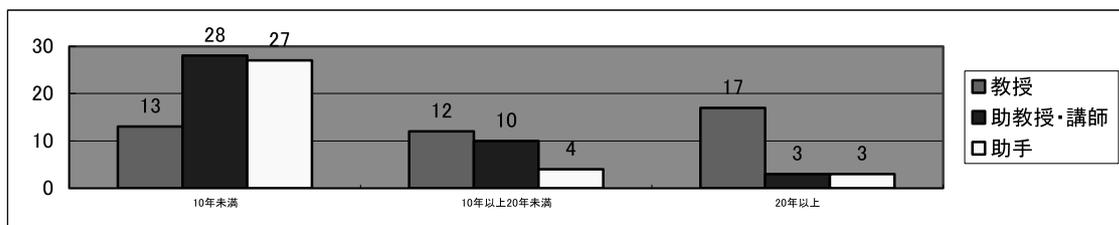


B、研究室配属はどのようにして決定されていますか。

回答 ⑤その他

物理工学科

A、教員の在職年数分布

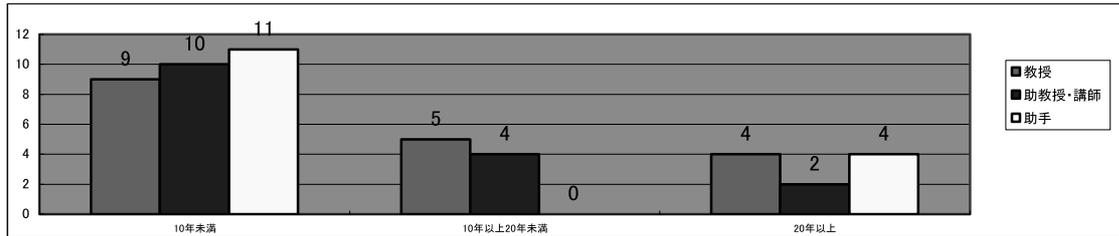


B、研究室配属は、どのようにして決定されていますか。

コース、サブコースにより若干異なった方法が取られていますが、学科全体を要約すると、「学生の希望先と成績に基づき、それぞれのコース、サブコースで定めた手順に則り、配属先を決定する」のが一般的になっています。

電気電子工学科

A、教員の在職年数分布



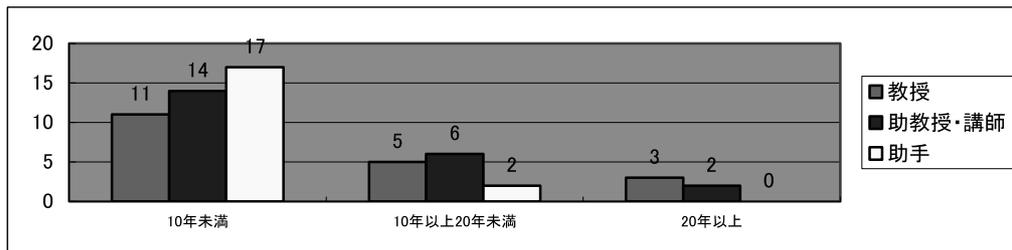
B、研究室配属は、どのようにして決定されていますか。

回答 ①学生の希望、④成績等より機械的に決定

1、4の方法を併用し、成績優秀者から順次希望に従って配属している。

情報学科

A、教員の在職年数分布



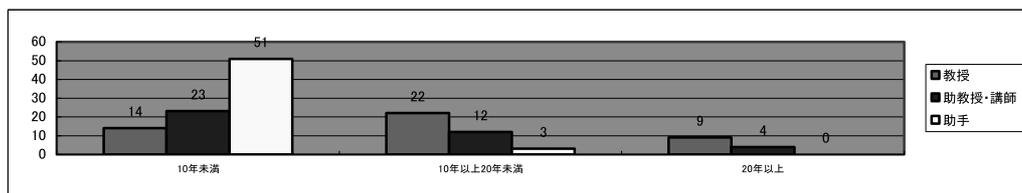
B、研究室配属は、どのようにして決定されていますか。

回答 ⑤その他

学生から提出される配属希望、研究室から提出される受け入れ上限・下限数、(ただし、研究室の教員配置状況により制約がある)、学生の成績を勘案して決定している。

工業化学科

A、教員の在職年数分布



B、研究室配属はどのようにして決定されていますか。

回答 ①学生の希望、⑤その他

6. 工学研究科点検・評価委員会委員名簿

平成17年4月

所 属	職 名	氏 名	備 考
工学研究科	研究科長	荒 木 光 彦	委員長
工学研究科	評 議 員	土 屋 和 雄	
工学研究科	〃	西 本 清 一	
社会基盤工学	専 攻 長	田 村 武	
都市社会工学	〃	伊 藤 禎 彦	
都市環境工学	〃	椎 葉 充 晴	
建 築 学	〃	門 内 輝 行	
機 械 理 工 学	〃	久 保 愛 三	
マイクロエンジニアリング	〃	田 畑 修	
航空宇宙工学	〃	稲 室 隆 二	
原子核工学	〃	福 山 淳	
材 料 工 学	〃	杉 村 博 之	
電 気 工 学	〃	小 林 哲 生	
電 子 工 学	〃	石 川 順 三	
材 料 化 学	〃	平 尾 一 之	
物質エネルギー化学	〃	大 江 浩 一	
分 子 工 学	〃	田 中 庸 裕	
高 分 子 化 学	〃	吉 崎 武 尚	
合成・生物化学	〃	杉野目 道 紀	
化 学 工 学	〃	田 門 肇	
機 械 理 工 学	教 授	北 村 隆 行	
事 務 部	事務部長	松 本 哲 夫	
材 料 工 学	教 授	河 合 潤	
電 子 工 学	〃	北 野 正 雄	
分 子 工 学	〃	川 崎 昌 博	副委員長
都市環境工学	〃	森 澤 眞 輔	運営会議構成員
機 械 理 工 学	〃	小 森 悟	〃
物質エネルギー化学	〃	垣 内 隆	〃
都市社会工学	〃	谷 口 栄 一	〃
電 気 工 学	〃	引 原 隆 士	〃
建 築 学	〃	宗 本 順 三	〃
原子核工学	〃	森 山 裕 丈	〃

7. 工学部点検・評価委員会委員名簿

平成17年4月

所 属	職 名	氏 名	備 考
工 学 部	学部長	荒 木 光 彦	委員長
工 学 部	評議員	土 屋 和 雄	
工 学 部	〃	西 本 清 一	
工学部-科学研究科	〃	八 尾 健	
地 球 工 学 科	学科長	松 岡 讓	
建 築 学 科	〃	高 田 光 雄	
物 理 工 学 科	〃	芹 澤 昭 示	
電 気 電 子 工 学 科	〃	橘 邦 英	
情 報 学 科	〃	藤 坂 博 一	
工 業 化 学 科	〃	田 中 一 義	
材料工学専攻	教 授	河 合 潤	教育担当主査
電子工学専攻	〃	北 野 正 雄	
分子工学専攻	〃	川 崎 昌 博	副委員長

京都大学大学院工学研究科・工学部自己点検・評価報告書 教育編

2006年(平成18年)10月発行

編集者 工学研究科・工学部点検・評価委員会

発行者 京都大学大学院工学研究科・工学部
〒615-8530 京都市西京区京都大学桂
TEL.075 - 383 - 2000

印刷所 ショウワドウ・イープレス株式会社
